

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム夢あかり	評価実施年月日	平成21年3月10日
評価実施構成員氏名	杉村 由勝、重島 三栄子、野村 貴史、竹内 絹代、石垣 貴嗣、小鷹 美津子、長棟 由香、伊瀬知 小夜子 小倉 紀子、大村 千恵子		
記録者氏名	重島 三栄子	記録年月日	平成21年2月23日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>ホームが地域の一員として機能を有し、利用者が地域に馴染み生きがいを感じて暮らしていく事を支援する事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>入社時の研修、及び毎日の申し送り時には職員全員で復唱しケアにおいても理念に基づき、日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入居者、ご家族においては入居前のパンフレットより説明を行っており、ケアについても理念に基づき行っていることをお伝えしている。地域の方々とはホームの行事にも参加して頂き、日々のふれあいの中で理解をしていただく機会を作っている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>道で会った時は、笑顔であいさつを交わしている。近所の方、親子での訪問もあり、入居者は楽しみにしている</p>		来てもらうだけでなく、こちらから入居者と一緒に出かけ、庭を見せてもらい会話をしている
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域の一員として町内会の総会やお祭りに参加している</p>		町内会の清掃や廃品回収時の手伝いに参加している
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>ホームでの行事の時には介護相談の機会を設け、相談できる所として理解してもらえるように努めている</p>	○	相談はほとんどなく、今後はもっと気軽に相談できる所として認知してもらえるようにしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価、及び外部評価について意義を分かりやすく説明し、理解した上で全職員が取り組んでいる。改善点があれば具体的に検討し、改善策に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議ではホームの運営状況、行事、外部評価の取り組み、結果等を報告している。助言、要望、指導等あれば真摯に受け止め、話し合いを行い、サービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>毎月、入居者の状況はじめ行事、活動、苦情等についても報告している。サービス提供上で不明な点、及び問題点があれば、その都度、確認また相談を行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在、ホームに入居されてから、成年後見制度を利用された入居者の方もおり、運営者、管理者、CMは外部研修に参加しており、学ぶ機会を増やしている。</p>		今後も、職員が積極的に研修に参加し、理解を深めていきたい
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束廃止委員会を設置し、その会議の中で現在行っているケア(言動、行動)が拘束、虐待につながるものがないか、話し合い確認を行っている。</p>		日々のケアが拘束、虐待につながる言動及び行動ではないか、常に注意防止に努めている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時、運営者、管理者が同席し、契約締結を行い、解りやすく説明し疑問があれば時間を十分に取説明している。</p>		不安や疑問がないように契約後も質問等があれば、時間を取り説明を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活のなかで表情や状態の変化により読み取るようにしているが、ご家族の協力を得て、ご本人の意見や意向を引き出して頂き、対応に努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族が来訪されるたび、また電話や手紙にて体調など近況報告を行っている。月1回はホームでの様子を広報紙にて報告をしており、金銭管理は出納帳を作成し送付して確認して頂いている。		当ホームのご家族は来訪される機会も多く、その都度、入居者の様子をお伝えしている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情、相談窓口の設置(重要事項説明書に記載)、第三者機関へ相談できるように相談窓口をお伝えしている。意見箱の設置も行っているが、ご家族の来訪時、近況報告をしながら改善点や意見等がないか、普段の会話の中から引き出すように取り組んでいる。意見等があれば即座に内容を検討し対応している。		今後も継続していきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議を定期的で開催し、職員の意見を聞く場を設けており、また緊急性があれば運営者を交え解決に取り組んでいる。		今後も出来る限り機会を作り、意見や要望を聞く場を設けていきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態に合わせて勤務時間の調整を行い、不都合が生じた時は、その都度、話し合いを行い対応している。		今後も状況に合わせた対応をしていく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職については多少はあるが出来るだけ馴染みの関係を壊さないように工夫し、ダメージを最小限に抑えるようにしている。		新しい職員が入ったりした場合は利用者と馴染みの関係を少しでも早く築くように心配りをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>社内外の研修を計画し、職員の経験年数等に合った研修が受けられるようにしている。</p>		研修内容を報告し、全職員が情報の共有が出来るように今後もしていく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>運営者は道グループ協議会、後志ブロック・会長でもあることから他事業者の方々と交流も多くネットワーク作りも行っている。、研修会や交流会に参加する機会が多くあり、職員だけではなく入居者の方々の交流も多く、楽しみにされている。</p>		今後も継続し交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>業務に負担、ストレスが無いように協力、工夫している。休憩室はテレビ・冷蔵庫も整備しており、職員が休憩を取りやすくしている。</p>		定期的に親睦の場を作り、気分転換を図れるようにしていきたい。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>スキルアップが出来るように、認知症ケア専門士や介護福祉士、ケアマネジャーなどの試験を受けることを推奨している。</p>		職員がやる気の起こるような環境作り、外部の研修や資格取得に向けた支援を行っている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家庭訪問や来所時に、ご本人が困っていること、不安に思っていることを安心して話が出来るように雰囲気、場面作りをし、ゆっくり聞き取る。そして受け止め、その人らしく安心した生活に結びつくよう努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご本人の前では表出しにくい事等は個別に面談を行い、ゆっくり話を聞き取り、受け止め安心につながるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の話聞き、ホーム内のサービスだけでなく、福祉用具の購入や電動ベッドの自費レンタルをしたり、医療では通院だけでなく、体調に応じて往診をお願いするなどしている		福祉用具の専門員に確認してもらい購入している。往診を依頼している
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族だけでなく、本人にもホーム見学をしてもらい、入居者の普段の様子を見てもらっている。		本人、家族が納得した上で入居してもらっている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に過ごす時間を大切に、職員が入居者から調理方法や味付けを教えられたり、食事やおやつ時間は一緒に食べたりしている		食事やおやつ、調理などの時間を共有している
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と一緒に本人の希望に添うように考えたり、本人からの希望を家族に伝えたりしている		家族だけでなく、本人も含めて話し合いをしている
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の希望や考えを本人に一方的に押し付けるのではなく、間に入って本人の希望と家族の希望を調整するようにしている		家族の都合に合わせて、話し合いの機会を設けている
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	今まで、行っていた病院や美容室などは継続して利用できるようにしている。友人、知人も気軽に来所できるような雰囲気作りをしている		今まで利用していた所は、継続して利用している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	Dルームでの入居者同士の会話や居室への行き来は多い。コミュニケーションが取りづらい方には職員が間に入るようにしている。レクでは入居者同士が協力できることを取り入れている。食事の後片付けを入居者で協力して行っている		入居者と職員と一緒に行事の飾り付けをしたり、漬物をつけたりしている
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ご家族が訪問したり、こちらから連絡をとり、近況を確認している		運営推進委員としてホームのことに協力していただいている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者との会話の中から本人の希望を引き出すように職員全員で努めている。本人だけでなく、家族との会話の内容も伝えてもらっている。上手に伝えられない方は、職員で話し合いをしている		言葉だけでなく、表情や仕草からも読み取るように努めている
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者の方とコミュニケーションを取りながら、生活歴を聞くようにしている。また、本人が伝えたくないことに関しては家族から聞いて把握するように努めている		本人、家族だけでなく、以前利用していた事業所からも情報を得るように努めている
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の希望する過ごし方や援助をするだけでなく、本人ができないと思ひこんでいてもできそうな能力を探し、把握するように努めている		本人にわかりやすく何度でも説明してできることを増やすように努めている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族から希望を聞き、定期的カンファレンスを開いて、入居者の状況を確認し、意見交換をしている。医師からも指示や助言をもらい介護計画に反映させている		カンファレンスだけでなく、毎日の申し送りの中でも情報の交換、提供をしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	体調が急変したり、現状に合わない時は、期間に関係なく見直しをしている。入院した際には退院前に確認し、本人の現状にあった介護計画を作成している		退院時には、病院での様子を看護師に確認をし、医師の指示、助言をもらっている
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子がわかるようにチェックシートに記入するようにしている。気づいたことは、その場で記入し、ケアプランに反映できるようにしている		チェックシートの内容は、本人に合うように個別に作成している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	体調に変化がある時、受診の希望がある時はすぐに対応し、受診している。理美容、買い物も介助の下外出している		急な外出、買い物にも対応している
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署の協力の下、火災・避難訓練を行い、指導、助言をもらっている。ホームでの大きな行事の際は、ボランティアにも手伝ってもらい、入居者にけががないように心がけている	○	民生委員との連携をもっと強化していきたい。警察とは関わりが薄いので、すぐに協力してもらえるようにしていきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人や家族の希望に合わせて、福祉用具の杖、靴、車イスなどを専門員にみてもらい購入している		福祉用具は定期的に点検してもらっている
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者についての相談や他のサービスについての相談をするなどしている		入居者が退居された場合、本人の状況に合う施設の相談に応じてもらう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	健康管理、服薬管理、食事管理、排泄援助を行い、受診、往診時に医師に伝え、状況を把握してもらい、助言を受けている		緊急時は点滴等の処置を受けたり、入院できる体制をとっている
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	申し送りの中で職員間で情報を交換し、定期的に専門医に受診、検査を受け、場合によっては電話で相談している		早めの受診だけでなく、電話相談の上、指示、助言をもらっている
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員の確保はされていないが、健康状態は主治医に定期的に報告し、指示、助言をもらっている		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には必要な備品の準備をし、家族との連絡を密にしている。医師、家族と話し合う機会を持ち、入院中の状況を確認し、いつ退院しても受け入れられる体制にしている		病院、家族と連絡を密にし、状況を把握するようにしている
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時から家族と話し合いをし、状況が変わった際も話し合いを持ち、主治医とも連携を図り、方針を共有している		本人、家族の要望を取り入れて、食事内容を本人に合わせたり、福祉用具の活用をしている
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	救急時の医療との連携体制、特定疾患を持っている方の緊急時のマニュアルを作成している。特変事には、かかりつけ医に緊急受診している		特変事や糖尿病の低血糖時の対応マニュアルを作成し、病院との連絡体制を整えている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族と話し合い、使い慣れたものを持ってきてもらっている。居室も本人が使いやすい、気に入るように配置してもらい、安心感があるようにしている</p>		<p>しっかりと話し合いを行い、使い慣れたものを持ってきてもらっている</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>大事な話がある時は、居室やゲストルームで話をしている。記録は事務所で保管していて、職員以外は勝手に見られないようにしている。入居者の尊厳に配慮した言葉使いをするようにしている</p>		<p>個人の記録の保管の徹底をし、言葉使いに注意している</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個人の理解力に合わせてできるだけ短く説明している。本人が選択できるように一つの提案だけでなく、複数提示して本人の好きなようにできるように心がけている</p>		<p>選択の際は、服などは本人の目の前に置いて選んでもらっている。説明時は、一つの行動が終わってから次の説明をしている</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者が話しのある時は業務の手を止めて聞くようにしている。本人が思うように生活ができるようにし、個人の時間を大切にしている。外出等では希望のある時はできるようにしている</p>		<p>レクなども参加したくない方は、強制しないで居室で読書やテレビを見てもらっている。急な外出、買い物の希望にもすぐに対応している</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容は本人の希望する店や以前から利用している店に行くようにしている</p>		<p>入居前から利用している所を入居後も継続している</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニューに入居者の好みを取り入れたり、体調に合わせて一緒に調理をしている。後片付けは、入居者が分担して行っている</p>		<p>各入居者の能力に合わせて、作業を分担している</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	コーヒーや紅茶、お茶など本人の好みに合わせて提供している。おやつも各入居者の好みに合わせるようにしている		朝のモーニングコーヒーの提供や好きな時に飲み物やおやつを提供している
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人の排泄パターンに合わせて声をかけたり、トイレに誘導している		食事の前後や夜間に時間を決めて声をかけている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に2回は入浴してもらっている。入りたくない時は、無理に入れないようにしている	○	曜日が現在は決まっているので今後は希望に合わせていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中も好きな時に居室で休んでもらい、夜間眠れない時は、温かい飲み物を提供し、落ち着くようにしている		就寝時間は決まってなく、本人の自由にしている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の能力や得意なことが活かせるようにしている。調理、畑仕事など得意なこと好きなことを職員全体で把握するようにしている		調理等だけでなく、アイロンがけをしてもらっている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる入居者の方には、自分でお金を持ってもらい職員の見守りの下買い物をしている		買い物の時に自分で支払いをしてもらう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出レクを取り入れている。家族と一緒に買い物や温泉にでかけている。近くの公園に散歩に行ったり、そこで食事をしたりしている		冬でも近くの喫茶店に行き、気晴らしをしている
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	歩行困難な方には車いすを手配して、大型商業施設での買い物や食事、また水族館に外出している。車いすを利用して家族と外出ができるようにしている		急な家族との外出や食事にも対応している
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも電話はできるようにしている。手紙を出したい方には、職員が出している		電話のかけられない方には、職員がかけて対応している
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問しやすい雰囲気作りを心がけ、居室やDルームで本人が満足できるまで過ごしてもらうようにしている		訪問時間は特に決めてなく、その方の都合に合わせている
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在は、拘束に当たるケアはなく、判断できない時は確認しながらケアを行っている		行為だけでなく、言葉使いにも気をつけてケアを行っている
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵をかける入居者はいない。入居者同士で訪問しあっている。玄関は、入居者や来客者がいつでも出入りできるようにしている		夜勤者が1名の時間帯以外は鍵をかけていない

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士でプライバシーに配慮しながら、声をかけあい入居者の所在を把握し、安全が保たれるようにしている		入居者の所在だけでなく、職員の位置、行動も伝えあっている
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	撤去するだけでなく、配置を変えたり、より入居者が使いやすいように工夫している		入居者の気持ちに配慮して、安心感があるようにしている
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各入居者に合わせた介助方法や現状を常に確認するようにし、事故につながらなくても危険な場面があれば、対応策を検討している		ヒヤリハットや事故報告書を全員で把握して話し合いをしている
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	内部研修で勉強したり、マニュアルを作成して全員が周知し、定期的に確認している		入居者によっては個別の対応マニュアルを作成し、定期的に確認している
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力の下、火災・避難訓練を行い、指導、助言をもらっている。近所の方にも災害時は協力してもらえるようお願いしている		消火訓練や避難誘導の訓練を行っている
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に家族に転倒や体調面でのリスクについて説明し、体調の変化があれば、その都度説明をしている。家族も納得した上で本人の望む生活が送れるように話し合いをしている		体調の急変時や入院時にはすぐに話し合いを持つようにしている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化、水分の摂取量、バイタルを申し送りを利用しながら、日中だけでなく夜間でもすぐ対応できるように主治医へ連絡をとれるようにしている		少しでも様子がおかしいと感じた時には、すぐに報告するようにしている
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時は、飲みこみを確認してから入居者から離れる。受診時の医師の指示や副作用の説明、薬の内容を書いた情報書を入居者の個人ファイルに添付したり、連絡ノートに記載して職員全員が把握できるようにしている		薬の処方が変わった際には、しばらく観察を強化し、副作用がないか確認している
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事メニューの内容や1日の水分量を申し送りを利用して確認している。乳製品を取り入れたり、水分摂取量が少ない方には、水分補給を促し、摂取してもらっている。ラジオ体操等を取り入れ、身体を動かすようにしている		水分制限のある方以外は、十分に取れるようにチェックしている。個人的に乳製品を取り入れるなどしている
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者の持っている力を引き出しながら、毎食後歯磨きや義歯の手入れを徹底して行っている。自主的にしない入居者の方には、声かけをして見守りの中に行っている		毎食後口腔ケアを徹底している
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べやすいように食事の形態の工夫をしている。栄養バランスがとれたメニュー作りをしている		その方に合わせて、きざみ食にしたり、ごはんではなくおかゆを提供している
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを徹底している。職員は出勤時には必ず、手洗い、うがいを行い、入居者の方も外出から帰ってきた際は、手洗い、うがいをおこなっている。ノロウイルスの勉強会等にも参加して学び、予防を心がけている		玄関先に消毒薬を用意して、手指を消毒してもらい、また、マスクを用意し、面会者にも協力してもらっている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	漂白剤を使用して、毎食後ふきんやまな板など調理用具の除菌をしている。食品は新鮮なものを選び、使用する分だけ買い、冷蔵庫に長期間保存しないようにしている		食材があまりそうな時は、メニュー変更して使いきっている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前は広く、入居者の方や来客者が出入りできるようにしている。玄関にはセンサーがあり、入居者が一人で出ようとしてもわかるようになっている		夏場は花を植えたプランターを置き、冬場は玄関前が凍らないようにマットを敷いている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間には、花を飾ったり、手作りの座布団やクッションを置いて、居心地よく過ごしてもらえるようにしている		Dルームは自然の光がよく入るようにしてあり、窓からは景色がよく見え、また、花壇の花も見えるようにしている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下には籐のいすやテーブルが置いてあり、自由に使えるようになっている。入居者の方がそこで会話をしたり、ゆっくりと一人で過ごしたりしている		各入居者が自分の気に入った場所を見つけられるようにしている
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は入居者が好むように使いやすいように家具を配置している。その方によっては安全を考えて一緒に相談しながら家具の配置をしている		居心地のよさだけでなく、安全も考えて本人、家族と相談して家具を配置している
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	1日に数回、換気を行い、空気の入替えをしている。居室も本人と話し合い、1日に1回は空気の入替えをしている。室温は本人の感覚に合わせて、設定している		居室に入った時に温度や湿度を確認して、調節している
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は段差がなく、手すりを設置している。動線を広く確保し、車いすでの移動もしやすくしている		歩行に不安のある方には居室内にも新たに設置するなど個別にも対応している
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	職員が各入居者の能力を把握して、自分でできることは自分で行えるように声かけや見守りをしている		見守りをしながら、時間がかかってもできることはしてもらいできることを一つでも増やすようにしている
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑を作って、入居者と一緒に収穫したり、ベンチを用意して日光浴をして過ごせるようにしている。建物の周りは自由に歩けるようになっている		職員と一緒に畑の雑草を抜いたり、花に水やりをしている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者の方々の希望はおおむね受け入れるよう努力している。来所しやすい雰囲気作りをこころがけ、家族や知人の面会は多い。町内会の行事や清掃にも参加し、地域の方々とふれあう機会を増やすようにしている。ホームでの行事には近隣の方にも参加していただいで、ホームの存在が浸透してきている。他グループホームとの交流もあり、入居者の楽しみも増えている。